

"対話的学び" × 図書館の学修支援

「つくば型チュートリアル学修」の授業支援

筑波大学附属図書館



<https://tutorial.edu.tsukuba.ac.jp/>

つくば型チュートリアル学修とは？

「つくば型チュートリアル学修」とは、筑波大学が2024年度からおよそ10年間をかけて独自に創り上げていく新しい教育モデルです。学生の個性と主体性を重視し、ひとりひとりの広く深い学修をサポートする個別指導により、創造性豊かな思考力と行動力で未来をデザインできる人材の育成を目指します。

授業「学問探究チュートリアル」

「学問探究チュートリアル」は、つくば型チュートリアル学修の第一歩として2024年度に開設された、一年次向けの選択履修科目です。（募集人員40名）
1年目の授業は2024年5月から2025年1月にかけて実施されました。ワークショップや個別対話を通じて、学生は自らの学修テーマを深め、最終回では、学生が1年間の成果をポスターで発表しました。

実施時期	実施内容
5-6月, 10月	ワークショップ (6回)
7-12月	個別対話 (6回)
1月	最終発表

全ての内容を中央図書館で実施！

授業の場として図書館がふさわしい！
「『新しい知』を生むための"知の集積"」
「『対話的学び』のための"オープンな場"」



授業の前半ではワークショップで自身の学びについて考えてみる



「個別対話」で受講生は教員と2対2で自身の興味・関心を語り下げる



最後の「成果発表会」ではこれまでの成果をポスターセッション形式で他の受講生や教員に発表



附属図書館が雇用する大学院生のラーニング・アドバイザーが受講生に自身の研究を紹介！



「学問探究」チュートリアルの本棚
チュートリアル教員が紹介するおススメの本の展示
「チュートリアルの本棚」

共に学ぶ
"場"

学びを深める
"資料"

学びに寄り添う
"人"

授業運営への図書館の貢献

図書館が授業支援を開始するにあたり、1つの科目に年間を通して密接に関わり支援していく取り組みは前例がなかったため、図書館が提供できる内容を検討し、2023年度末に「チュートリアル教育を支援するための図書館サービス方針」を作成しました。大きく分けて以下の4つです。

1. 授業における図書館施設の活用
2. チュートリアル教員の推薦図書を紹介する本棚の設置
3. 履修学生に対する人的サービス
4. 広報・成果物展示への協力

これに沿って、教学デザイン室・教育推進部教育機構支援課との連携のもと、2024年度から実際の授業支援を開始しました。「学問探究チュートリアル」の科目は、本学の指定国立大学法人構想及び第4期中期目標・中期計画に掲げるチュートリアル教育の構築及び実施のため「学群教育会議」の下に設置された、「チュートリアル学修推進委員会」により実施されています。委員会は各学群より選出された教員とチュートリアル教育タスクフォースの教員（合計約30名）で構成されています。毎月開催される委員会やタスクフォースの会議には図書館職員も陪席し、議論の過程をリアルタイムで把握することで授業運営への協力が活かされています。

授業支援を通して改めて考える 学生にとっての図書館の価値とは

「オープンサイエンスの時代にふさわしい『デジタル・ライブラリー』の実現に向けて～2030年に向けた大学図書館のロードマップ～」(令和6年7月)では、「学修者本位の教育の実現に即した機能的変化が求められている」と指摘されています。筑波大学が推進している「つくば型チュートリアル学修」は、まさに学生一人一人の学びに寄り添う、学修者本位の教育であると言えます。この授業で、学生が「同級生や先生と、学問的に自分が興味のあることを思う存分話せる場はここしかない」「自分の関心テーマを掘り下げていくにあたり図書館で借りた本が良いヒントになった」と語った言葉は、図書館が授業と連携することで学生に提供できる「場」や「資料」の価値を示す言葉として私たちはとらえています。「つくば型チュートリアル学修」は、学生の主体性と創造性を育む新たな教育のかたちです。その第一歩を支えた図書館の取り組みは、学びの場としての図書館の可能性を広げました。今後も、図書館は教育と連携しながら学生一人ひとりの探究を支える存在であり続けます。

附属図書館における学修支援体制

中央図書館では、「ラーニング・スクエア」（ラーニングcommons）を2011年度にオープンし、ラーニング・アドバイザー（大学院生）が活動するなど、学生の学修をサポートするための「場・資料・人」の提供にフォーカスした支援体制の構築を継続的に実施してきました。

